

JOT

社会とともに発展を遂げる企業であるために

2016

CSR報告書

Corporate Social Responsibility



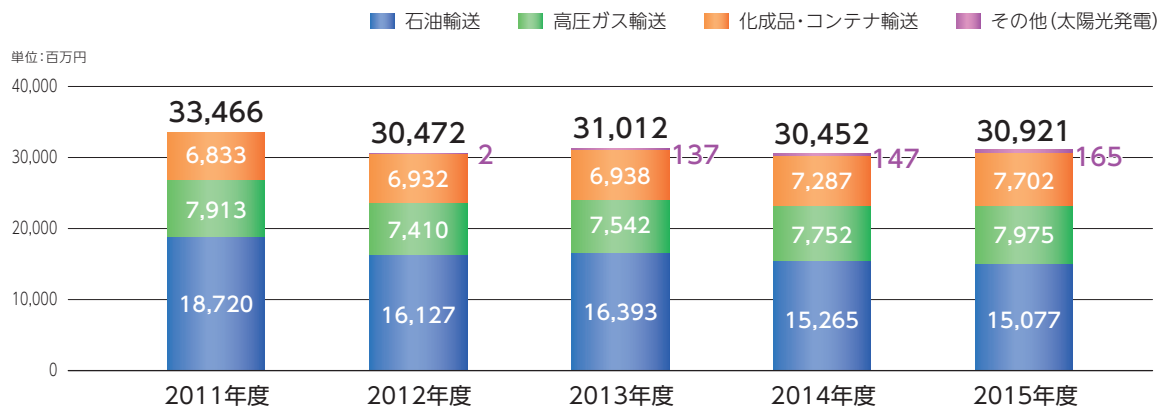
会社概要

社名	日本石油輸送株式会社 Japan Oil Transportation Co.,Ltd.
所在地	東京都品川区大崎一丁目11番1号
設立	1946年3月27日
資本金	16億61百万円
従業員数	連結1,403名、単体163名(2016年3月31日現在)
事業内容	1. 石油製品(ガソリン・灯油等)の鉄道タンク車輸送・貨物自動車輸送 2. 高圧ガス(LNG等)の鉄道コンテナ輸送・貨物自動車輸送および複合一貫輸送 3. 石油化学製品等の鉄道コンテナ輸送・貨物自動車輸送ならびに国内および国際複合一貫輸送、各種コンテナのリース 4. 鉄道用冷蔵・冷凍コンテナ等のレンタル・リース 5. 太陽光発電事業
グループ会社	株式会社エネックス、近畿石油輸送株式会社、株式会社ニチュ、株式会社ニュージェイズ、株式会社JKトランス

CONTENTS

01	会社概要
02	トップメッセージ
03	特集 JOTグループの社会貢献活動
05	日本石油輸送のCSR
06	目標と実績
07	コンプライアンス
08	品質管理
09	安全
11	環境保全
13	人間尊重
14	社会貢献

財務ハイライト 連結売上高推移



【編集方針】

「CSR報告書2016」は、JOT(日本石油輸送)グループを支えてくださっているステークホルダーの皆様へ、JOTグループが取り組んでいる様々なCSR活動を広く発信することを目的に発行しています。特集では、JOTグループの社会貢献活動について詳しく取り上げました。また、後半部分では、JOTグループのCSR推進テーマの項目ごとに、各活動の考え方、実績、取り組み内容事例について報告しています。

【対象期間】

原則として、2015年4月1日から2016年3月31日までを対象期間としていますが、一部、2016年4月以降の内容も含んでいます。

【対象範囲】

日本石油輸送株式会社およびグループ会社5社

【発行時期】

2016年9月(前回発行:2015年10月)

Shift for the Next

安全の徹底と質の高いサービスで未来への責任を果たします



日本石油輸送株式会社
代表取締役社長

森田 公生

日本石油輸送は、おかげさまで2016年3月27日に会社創立70周年を迎えました。これもひとえに、永年にわたってステークホルダーの皆様からご支援、ご信頼をいただいていた賜物であり、厚くお礼申し上げます。

日本石油輸送は、戦後間もない1946年に国産原油の輸送を目的に「日本原油輸送株式会社」として産声をあげました。以降、70年間、経済社会環境が大きく変化する中で、社名の由来である石油製品はもちろん、化学製品、生鮮食料品、LNG（液化天然ガス）など、皆様の生活に欠くことのできない様々な物資を運び続けてきました。

近年では、グローバル化の進むお客様の多様なニーズにお応えするため、海外での輸送サービスを開始したほか、次世代の自動車用燃料として注目されている水素の輸送についても、中長期的な視野に立ち、取り組みを進めております。

このように、私たちJOT（日本石油輸送）グループの事業は、人々の生活を支えるライフラインの一端を担っています。私たちはこの役割と責任に誇りを持ち、70年間、社会に貢献するという視点を大切に、事業を展開してまいりました。

今般、会社創立70周年を迎えるにあたり、私たちは、JOTグループのこれまでの足跡を振り返り、また、これから進むべき将来の姿に思いを馳せ、これを分かりやすく簡潔な言葉でまとめた「キャッチフレーズ」を制定いたしました。それが、「Shift for the Next 安全の徹底と質の高いサービスで未来への責任を果たします」です。

「Shift for the Next」は、JOTグループが次の時代、新しい時代に向かってもう一段のレベルアップを目指し、挑戦し続けていくという、未来志向を表しています。

「安全の徹底」は、言うまでもなく、輸送会社の基本であり、永遠の課題です。

「質の高いサービス」は、JOTグループが顧客から信頼され、選ばれる、日本一のサービスを提供できる企業グループを目指すことを表しています。

そして、「未来への責任を果たします」は、私たちの仕事の社会的責任の重大さを自覚し、これを未来に向かって永遠に全うしていくという決意表明です。

JOTグループは、このキャッチフレーズのもと、一丸となって未来に向かって挑戦し続けてまいります。

最後になりますが、この「CSR報告書2016」は、2015年度にJOTグループが取り組んだCSR活動の内容をまとめて、ステークホルダーの皆様にご紹介するものです。本報告書はCSR活動の報告を通じて、より多くのステークホルダーの皆様からご意見・ご指摘を頂戴して、新たな課題を発見しながら改善に結び付けていくものです。どうか皆様の忌憚のないご意見をお寄せいただきたいと思います。今後もCSR経営のレベル向上と実践に専心してまいります。

2016年9月

JOTグループの 社会貢献活動について ご紹介します。



日本石油輸送は、2016年3月27日、会社創立70周年を迎えました。

半世紀以上にわたり、社は「奉仕こそ我が務め」の精神のもと、社名の由来である石油はもちろん、皆様の暮らしを支える様々な製品を運び、ライフラインの一端を担ってきました。

創立間もない1952年に制定された社は「奉仕こそ我が務め」の精神は、本業はもちろん、社会貢献活動の中にも生かされています。社会に奉仕する企業でありたい。社会とともに生きる企業でありたい。70年の歴史の中で、様々な社会貢献活動に取り組んできました。

かつては、寄付を中心として行われていた活動ですが、ここ10年は、従業員が主体性をもって取り組むことのできる参加型のボランティアや、社会の一員として地域に根ざした活動を行うなど、様々な取り組みを展開しております。

輸送事業に携わる 企業グループとして

JOTグループにとって、本業での安全の徹底は最優先のテーマです。一方、社会貢献活動においても、交通事故ゼロの社会であってほしいとの願いを込め、警視庁への交通安全宣伝カーの寄贈、財団法人交通遺児育英会(当時)への寄付など、古くから、様々な形で、取り組みを実施してきました。その中でも、現在、継続して取り組んでいる息の長い活動について、詳しくご紹介します。

1991年～
25年間
継続

障がいをもつ方への支援活動



盲導犬との体験歩行

日本石油輸送では、目の不自由な方に道路を安全に利用していただきたいとの願いを込め、盲導犬の育成・訓練・歩行指導を行っている公益財団法人アイメイト協会と公益財団法人日本盲導犬協会に継続的な支援を行っております。

アイメイト協会に対する支援については、1991年、会社創立45周年を契機に開始しました。また、日本盲導犬協会に対する支援については、より範囲を広げて社会に貢献することを目的に、2011年、会社創立65周年を契機に開始しました。

支援を開始して25年、金銭面での支援はもちろん、ここ10年は、従業員が両協会を訪問し、盲導犬利用者の話を聞くことに加え、盲導犬との歩行等も体験するなど、目の不自由な方に対する理解を深める活動も行っています。

30年以上
継続

次代を担う子どもたちへの 育成支援

わが国の将来を担う次世代の育成のために、日本石油輸送では、交通事故を防止するための黄色い帽子などを学童へ寄贈する活動を30年以上継続して取り組んでいます。

活動当初は、小学校へ黄色い帽子を寄贈する団体へ金銭的支援をしておりましたが、近年では、黄色い帽子のほか、黄色い傘や自転車用ヘルメットなど、それぞれの小学校の要望に応じた品物を、私たち日本石油輸送が購入して小学校へお届けしています。

2015年度も、本社、各支店近隣の小学校計8校、のべ413名の子どもたちへ寄贈しました。



品川区立三木小学校への自転車用ヘルメットの贈呈

地域に根ざした社会貢献活動

日本石油輸送では、本社や支店・事業所を中心に地域に根ざした社会貢献活動を継続的に行っています。また、JOTグループ各社においても事務所近隣や地域の道路清掃活動等を行っています。

2006年～
10年間
継続

品川区民まつりへの参加

地域に根ざした活動の代表的なものに、品川区民まつりへの参加があります。

2006年7月23日に大崎中学校(東京都品川区)において開催された品川区民まつりで、日本石油輸送が所有する冷蔵コンテナと冷凍コンテナを使って、北海道沼田町から10トンの天然雪を運び、子どもたちに、真夏の雪遊びをプレゼントすることがきっかけとなりました。

この年以降、毎年、品川区民まつりに従業員ボランティアが参加し、焼きとうもろこしや焼きそばの模擬店のお手伝い等を通じて、地域住民の方々との交流を深めています。



本業を通じた社会貢献 ～ライフラインを守るために～

2011年3月11日に発生した東日本大震災では、ライフラインの確保に向けてJOTグループの社会的責任を果たしました。

被災地へ
燃料を！

東日本大震災での取り組み

鉄道輸送

東日本大震災では、東北地方の製油所や油槽所が被災し、石油製品の出荷ができない状況になりました。鉄道網も震災による路盤崩壊や架線切断により東北本線の黒磯以北が不通となり、通常の鉄道輸送が不能になりました。

この状況の打開に向けて、日本石油輸送では、日本貨物鉄道株式会社(JR貨物)とともに、震災の影響の少ない路線を利用する迂回列車の設定に取り組み、震災から1週間後の3月18日には日本海縦貫線経由の盛岡行き、3月25日には磐越西線経由の郡山行きの石油貨物列車の運行を開始しました。

この迂回列車は、東北本線が復旧するまで続けられ、被災地への燃料の供給に貢献しました。迂回列車で運ば

れた石油製品は合計で5万7千kl、標準的なタンクローリーに換算するとおよそ2,850台分に相当します。



自動車輸送

タンクローリーによる自動車輸送も、製油所や油槽所が被災して、石油製品の出荷ができなくなったことに加えて、道路網も寸断されるなど、通常の輸送が不能になりました。

東北地方の太平洋側の燃料不足解消に向けて、JOTグループのエネックスは、業務可能な仙台地区の従業員をはじめ北海道、中部、関西の各拠点から従業員や車両を震災の被害が少なかった新潟・秋田地区へ派遣して、これら地区から東北地方の太平洋側に向けて応援輸送を実施しました。



会社概要

トップメッセージ

「特集」JOTグループ
の社会貢献活動

日本石油輸送の
CSR

目標と実績

コンプライアンス

品質管理

安全

環境保全

人間尊重

社会貢献

JOTグループは、社会から必要とされ、社会とともに継続的な発展を遂げる企業を目指し、「社是」、「JOTグループ・ミッション」を“道しるべ”としてステークホルダーの皆様に対して社会的責任を果たしてまいります。

社 是

ポイント

奉仕こそ我が務め

Service is my business

社是の意味するところは、「企業は単に利潤を追求するだけではなく、業務を通して社会に奉仕するという高い理想を掲げるべきであり、そうした経営理念に支えられた企業のみが社会での存立の基盤を与えられ、発展を許される」という企業観に根ざすもので、1952年に制定されました。

JOTグループ・ミッション

私たちJOTグループは、会社と仕事に誇りを持ち、5つのミッションを成し遂げて社会の発展に寄与いたします。

1

安 全

セーフティ1st・安全を仕事の中心に徹します。

2

フェア

遵法精神と社会的良識をもったフェアな企業活動を行います。

3

信 頼

最高の商品と輸送サービスを提供し、お客様からの信頼を得ます。

4

チャレンジ

チャレンジ精神で新分野や新商品を開拓し、社会と社業の発展を目指します。

5

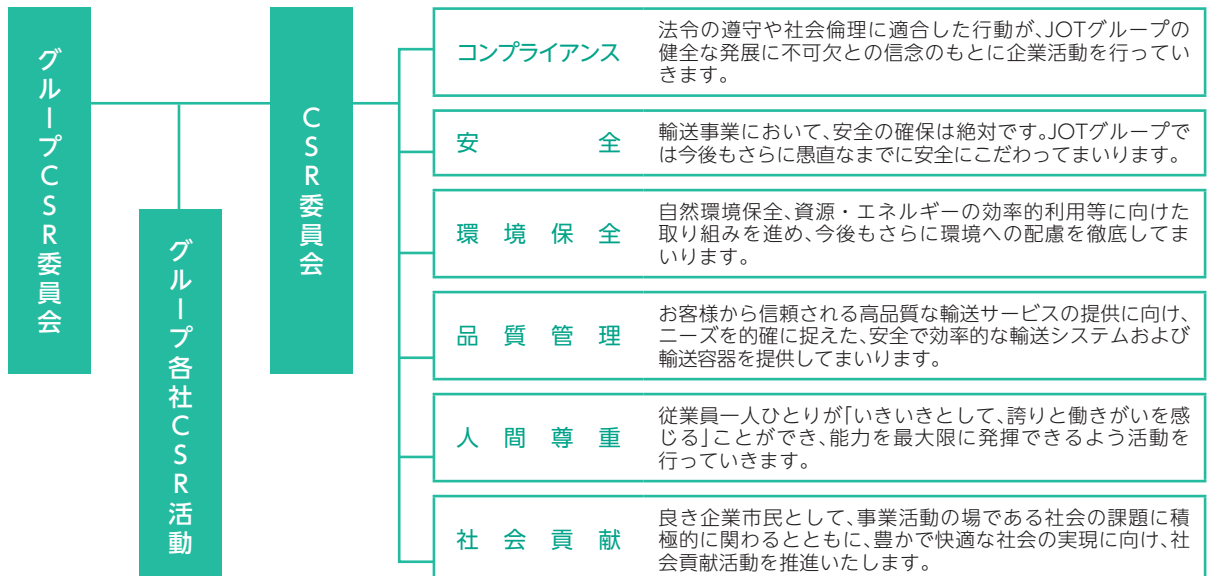
ハーモニー

自然環境保護に努め、社会貢献活動を通じて社会との調和を図ります。

▶ 6つのテーマを一体的に展開し、CSR全体のレベルアップを目指してまいります。

日本石油輸送は、ステークホルダーの皆様からの信頼をさらに強固なものとするため、CSR委員会を中心に、6つのCSR推進活動テーマを設定し、一体的に展開しています。

また、グループ各社もCSR活動を実践しており、グループ一体となってCSR活動を推進するためグループCSR委員会を設置しています。



定期的に活動を評価し、 PDCAサイクルで取り組みを進めています。

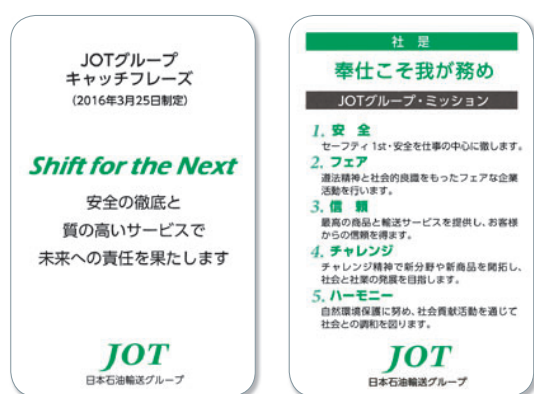
日本石油輸送のCSR活動は、社長を委員長としたCSR委員会で、年度ごとの活動実績とそれに基づいた次年度の計画を報告し、討議を行っております。

この計画に基づいて、CSR活動を推進し、半年ごとのCSR委員会でそれぞれのテーマの進捗状況を確認しています。2015年度の活動実績と2016年度の目標・計画は4月18日のCSR委員会にて報告されました。

テーマ	2015年度の目標	実施項目	2016年度の目標・計画
コンプライアンス	リスクの低減	リスクの整理と再評価 関連法規の再確認	リスクの整理と再評価 関連法規の再確認
	適切な情報管理	個人情報保護台帳の更新整備 ソーシャルメディアガイドラインの周知	個人情報保護台帳の更新整備 情報管理の取り扱い・ルール等の検討
	内部通報制度の充実	社内報・社内イントラによる制度の周知	社内報・社内イントラによる制度の周知
	コンプライアンスに関する意識の向上、関連法令の徹底	コンプライアンスチェックによる意識の定着度および関連法令の認識度の確認とフォローアップ	コンプライアンスチェックの結果を踏まえた対策、啓発活動の実施
安全	安全な職場環境づくり	全国安全パトロールの実施 事故調査委員会・安全外部監査等の実施 グループ各社における安全性優良事業所の認定取得	安全な職場環境づくりを継続的に推進するために、全国安全パトロールの実施や、安全外部監査等を実施し、グループ一丸となって取り組む
	安全活動の全国展開と安全意識の共有化	全国安全委員会の開催 グループ統一安全活動の実施	全国安全委員会やグループ安全会議を通じて安全活動の全国展開と安全意識の共有化を図る
	安全教育の実施	安全推進者合同研修会の開催 危機予知・事故回避教育の実施	安全推進者合同研修会等の開催や事故回避に向けた教育活動を実施し、安全意識の向上を図る
	運輸安全マネジメントの取り組み	グループ各社において、PDCAサイクルに則った継続的改善の実施	運輸安全マネジメント体制の充実を図る
環境保全	JOT環境マネジメントシステムの維持、推進に努める	マネジメントレビューの開催 有効な内部監査の実施	JOT環境マネジメントシステムの維持・推進に努める
	業務における環境負荷軽減(CO ₂ 削減)を目指す	鉄道貨物輸送の推進 バイオ燃料の円滑な輸送の実施 LNG輸送による環境負荷の軽減 太陽光発電による環境負荷軽減	業務における環境負荷軽減(CO ₂ 削減)を目指す 電力・紙・水等のエネルギー資源の効率的な使用および使用量の削減に努める 廃棄・排出にあたっては、法令を遵守し、分別回収に努める
	気候変動キャンペーン[Fun to Share]に継続参加し、さらなる環境保全への意識啓発を図る エコドライブキャンペーンをはじめとする環境保全活動をグループ全体で推進する	気候変動キャンペーン[Fun to Share]への参加 エコドライブキャンペーン活動 グループ各社におけるグリーン経営認証の取得推進	環境に関する教育を充実させるとともに、社内における環境情報の共有化および社外への情報発信に努める
品質管理	国内輸送および国際輸送における物流・ロジスティクスシステムの調査・研究	他社物流拠点および物流展示会の視察・見学の実施	国内輸送および国際輸送における物流・ロジスティクスシステムの調査・研究 新品質管理システムの運用と内部監査の実施
人間尊重	人権啓発の促進	人権に関する意識実態調査および職場環境のアンケートによる働きやすい職場環境の実現 障がい者雇用の取り組み	人権に関する意識実態調査および職場環境のアンケートによる働きやすい職場環境の実現 障がい者雇用の取り組み
	こころと身体の充実	健康増進に向けた取り組み メンタルヘルスのDVD鑑賞	健康増進に向けた取り組み ストレスチェックの実施
	ワークライフバランス実現	有給休暇取得促進・定時退社推進日の実施等による時間外労働の削減への取り組み	有給休暇取得促進・定時退社推進日の実施等による時間外労働の削減への取り組み
	従業員のキャリア形成と能力支援	次世代育成のための教育プログラムの実施 研修によるグループベースにおける人事交流と研修の実施	次世代育成のための教育プログラムの実施 研修によるグループベースにおける人事交流と研修の実施
社会貢献	企業としての支援の実施	視覚障がい者支援：盲導犬育成団体への寄付、体験型活動 次世代育成支援：事務所近隣の小学校に対する黄色い帽子・傘・自転車用ヘルメットの寄贈、子どもの貧困対策に取り組む団体への寄付	援助を必要とする人々や団体への継続的な支援を行うことを念頭に置き、活動の充実を図る 寄付だけでなく、より理解を深めるため、体験型活動も取り入れる
	ボランティア活動	収集ボランティア、地域のイベントや事務所近隣の清掃活動実施等により、地域社会との交流を実施	より多くの従業員が参加できるよう、誰でも気軽にできるボランティア活動を継続する
	環境保全活動	環境保全に向けた支援として、神奈川県主催の「森林再生パートナー制度」に参加 森林整備ボランティアを実施	寄付だけでなく、より理解を深めるため、体験型活動を重点的に実施する

社会から信頼され続ける企業を目指し、 コンプライアンスの徹底を図ってまいります。

CSR経営を推進していくうえで重要なことは、法令やルールはもとより、広く社会規範も含め遵守することです。JOTグループでは、経営理念に基づき、事業活動全般において求められる法令・ルールを十分に理解し、さらに一個人・一市民として社会規範を尊重のうえ、良識と責任をもって行動するよう取り組んでいます。その経営理念については、全役職員に名刺サイズのカードを配布し、その浸透を図っています。



ミッションカード

1 リスクマネジメントに対する取り組み

日本石油輸送では、事業運営に重大な危機が発生した際のリスクの顕在化の予防と、被害を最小限に抑え迅速に事業を継続させることを目的に、会社が抱える多種多様なリスクを1件ごとにリスクシートを作成して把握し、毎年度これを更新することにより、リスクマネジメントに取り組んでいます。

今後も、会社に与える影響が大きいリスクを中心に予防、改善活動に取り組んでまいります。

2 情報管理に対する取り組み

個人情報の管理においては、法令に則った規程の整備や、会社が保有する個人情報を「個人情報保護台帳」で管理し、定期的に確認・更新する仕組みを運用しているほか、マイナンバー制度へも、法令に則し適切な対応を図っています。

また、近年急速に普及しているソーシャルメディアについては、不正確な情報や不用意な記述により、予期せぬトラブルに巻き込まれる危険性があります。そこで、個人がソーシャルメディアを利用する際の基本的な考え方や留意点をまとめたガイドラインを策定するなど、適切な利用に向け取り組んでいます。

3 コンプライアンス教育

コンプライアンスの徹底を図っていくためには、全役職員一人ひとりの意識の向上が必要となります。そのため、各種研修時において、各層の実態に即したコンプライアンスに関する教育や外部講師を招きコンプライアンスに関する講演会を実施するなど、さらなる意識の向上を図っています。



コンプライアンス講話

4 コンプライアンスチェックの実施

JOTグループ各社では、従業員を対象として、セルフチェック方式による「コンプライアンスチェック」を実施しています。

本チェックでは、コンプライアンスに対する意識を向上すべく、自分自身の行動の振り返りと正しい行動に向けた再自覚を促すことに加え、経営理念や社内ルールおよび業務に関連する法令の理解度等を把握し、今後の効果的な活動に役立てています。

5 内部通報(ヘルプライン)に対する取り組み

JOTグループ各社では、事業活動に伴うリスクや不正の早期発見と解決および未然防止の観点から「内部通報制度」を定め、従業員に向けて、社内報やイントラネット等により、周知を図っています。

本制度では、通報者のプライバシーへの配慮や通報者に対する不利益な取り扱いを固く禁止しているほか、通報窓口についても、社内通報窓口に加え、社外通報窓口(弁護士事務所)を設置しており、より通報しやすい環境を整備しております。

お客様に信頼される高品質な輸送サービスの提供を目指します。

1 品質管理委員会

2015年度は、活動テーマを「国内輸送および国際輸送における物流・ロジスティクスシステムの調査・研究」とし、他社の物流拠点の見学や展示会等の視察により、品質管理に対する認識を高めました。

また、品質マネジメントシステム(ISO9001)につきましては、認証取得以来の活動を通じて、従業員が品質マネジメントシステムの運用に習熟し、顧客満足度の向上への取り組みが定着してきたことから、2014年9月26日付にて認証を返上しました。認証の返上後は、ISO9001推進委員会を品質管理委員会に統合し、化成品部門の輸送品質の維持・向上に特化した活動をしています。



他業種企業の見学

参加委員の声

安全運転を支援する機器を展示会で見学しました。輸送に携わる企業として、ヒューマンエラーを撲滅するために、このような機器を活用しつつ、乗務員の安全意識が高まるよう私たちが支援していけば、JOTグループの輸送品質がさらに向上すると思われました。(LNG部)

トラブルが人命に直結する「飛行機」のメンテナンスについて、話を聞くことができ、メンテナンスの重要性を改めて感じました。日本石油輸送の商品である「輸送容器」も危険物や毒劇物の輸送に利用されており、「飛行機」と同様に、不具合は人命に直結します。お客様にメンテナンスの重要性をよく理解していただき、点検の完達に向けて取り組みたいと強く思いました。(化成品部)

輸送サービスや輸送容器を提供するうえで、安全対策は欠かすことのできない重要な課題です。航空業界のような異業種の対策についても、安全という目的は同じであり、どのような計画を組んで、実際にどう取り組んでいるのか、JOTグループの安全対策に反映できることも数多くあると感じました。(総務部)

新品質管理システム対象支店への内部監査の実施

2015年12月～2016年2月に新品質管理システム対象支店におきまして、内部監査を実施しました。内部監査の結果、すべての対象支店において不適合事項および修正事項等の指摘はなく、新品質管理システムの有効な運用を確認することができました。

2 品質向上への取り組み

日本石油輸送の石油部門では年1回の「タンク車自主点検」により、タンク車のバルブ・内部状態・外装・パッキン等消耗品のメンテナンスを実施しています。化成品部門では、新造から一定期間以上が経過し、外観の劣化が著しいコンテナは「リファビッシュ※」を行い性能を維持しています。LNG部門では高圧ガス保安法に基づく容器再検査をグループ企業内でも行っています。また、コンテナ部門では、お客様により綺麗なコンテナをご利用いただくため、定期的に庫内清掃を行い、「コンテナ美化」に取り組んでいます。

各部門とも容器メンテナンスの徹底を図り、品質の維持・向上に取り組んでいます。

※ 製造後10年経過を目途に、劣化した断熱材の取替え等の機能維持と経年による汚れが目立つ外装材の全面取替え・再塗装を行うことです。



タンク車の自主点検



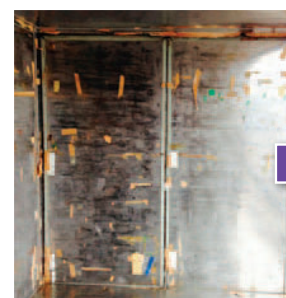
LNGコンテナの容器再検査



化成品コンテナのリファビッシュ



冷蔵コンテナの外観



冷蔵コンテナの庫内清掃

日本石油輸送の安全活動基本方針

スローガン 「勝ち取ろう SAFETY 1stで 顧客の信頼」

基本方針

- ① 輸送品質を高めお客様のブランド向上・信頼に応える
- ② 法令と基本作業を守る

目標

- ① 協会会社事故ゼロ
- ② 事務ミスゼロ
- ③ 連絡車事故ゼロ



具体的活動内容

1 全国安全パトロール

日本石油輸送は、安全で確実な輸送を行うために、まず職場の安全を確保することが重要と考えています。

社内の安全活動として実施している「全国安全パトロール」では、約50にもおよぶチェック項目について確認を実施し、各所における労災や事務ミスの防止に努めています。

2015年度全国安全パトロール実施場所

- 北海道支店 ●北海道支店帯広営業所
- 九州支店徳山営業所 (計3カ所実施)



北海道支店帯広営業所



九州支店徳山営業所

2 全国安全委員会の開催

日本石油輸送は安全活動を徹底させるため、安全委員をはじめ各支店・事業所の安全推進者が一堂に集まり、安全確保に向けた重点施策を構築すべく、「全国安全委員会」を開催し、安全活動の取り組みの強化を図り、活動しています。



全国安全委員会

3 協会会社訪問ヒアリング

日本石油輸送は、協力会社の方々に安全に対する考え方にご理解、ご協力をいただくため、「協力会社訪問ヒアリング」を実施しています。

この事前準備として、グループ会社であるJKトランスにおいて、安全推進担当者による事前勉強会を開催しています。



協力会社訪問ヒアリング事前勉強会 JKトランス川崎営業所

JOTグループの安全活動基本方針

スローガン **「安全を仕事の中心に SAFETY 1st」**

基本方針

- ① 輸送品質を高めお客様のブランド向上・信頼に応える
- ② 「運輸安全マネジメント」体制の充実を図る
- ③ 法令と基本作業を守る
- ④ 隠蔽行為を防止する

目標

- ① 隠蔽事故ゼロ
- ② 追突事故ゼロ
- ③ 混油(液)事故ゼロ



1 安全外部監査の実施

グループ安全対策本部では、決められたルール・手順を徹底するとともに、事故の未然防止を図るべく、



荷卸訓練立会い
エネックス石狩営業所

グループ全車庫を対象とした「安全外部監査」を実施し、安全で確実な作業が一つひとつ忠実に実践されていることを確認しています。

2 IT点呼の実施

JOTグループの11車庫で活用しています。休日の早朝深夜に稼動している乗務員の点呼、遠隔地の中間点呼等に活用することで、確実な点呼記録を作成し、業務の効率化を図るとともに、乗務員の安全・安心を確保なものにしています。



JKトランス 川崎営業所

3 安全推進者合同研修会

JOTグループの安全推進者を集め、安全活動の要を担う者としての役割を再認識させ、グループの安全風土を確立することを目的とし、2日間にわたる研修を実施しています。



4 グループ会社 安全活動

エネックス 緊急出動訓練の実施

エネックスでは、緊急事態の発生に備え、「緊急出動訓練」を実施しています。

この訓練では、事故発生時の現地と車庫の対応はもとより、情報収集の手段や緊急連絡ルート、緊急時に使用する資機材の使用方法等を再確認しています。乗務員と車庫とが一体となった実践的な訓練を行い、万々に備えています。



JKトランス 安全運転講習会の実施

JKトランスでは、UDトラックス株式会社様のご協力をいただき、経験の少ない乗務員を対象とした「安全運転講習会」を実施し、乗務員の運転技能の向上を目指すとともに職務レベルの統一を図っています。



グループ安全標語

**「トラブル時 あわてず あせらず
初期対応 一人で決めず報連相」**



JOTグループの保険部門に携わる者として、トラブルが起きてしまった後の対応がいかに大切かという思いを込めました。

ニチユ 立田 好夫

地球環境に配慮した経営を「モーダルシフト」で推進しています。

1 環境基本理念に基づく環境マネジメント

日本石油輸送は環境基本理念・環境基本方針のもと、事業を通じた環境保全への貢献に全社で取り組んでいます。

環境基本理念

人類が自然環境と共存していくために地球環境の保全は世界共通のテーマであり、環境に配慮しない企業は存続しえないとの認識に立ち、あらゆる活動を通じて、自然との調和に努め、環境負荷の低減を図り、継続的に環境保全活動を推進する。

環境基本方針

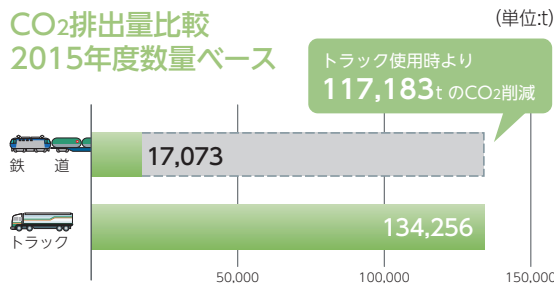
- ① 環境関連法規の遵守
- ② 自然環境保全
- ③ 資源・エネルギーの効率的利用
- ④ 循環型経済社会の実現
- ⑤ 環境マネジメントシステムの継続的改善
- ⑥ 環境方針の周知と公表

2 輸送を通じて環境負荷低減に貢献

日本石油輸送は会社創立以来、「環境に優しい鉄道」を輸送手段とし、生活や産業を支えるエネルギーや製品を輸送しています。また、2013年からは太陽光発電事業を開始し、環境負荷低減に貢献しています。

【石油タンク車輸送で環境負荷低減】

2015年度に当社タンク車(鉄道)が輸送したガソリン・灯油等の石油類は約551万klです。これは一般的なタンクローリー(20kl)の約28万台分の輸送量に匹敵し、タンクローリー(トラック)使用時と比較して約11万7千tのCO₂排出量を削減したことになります。



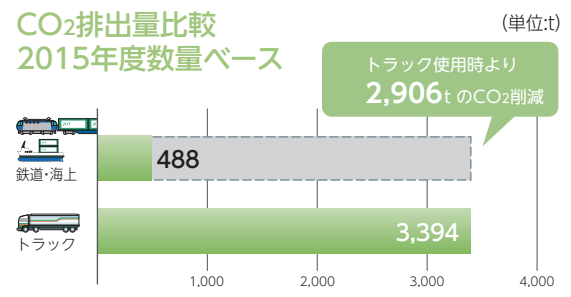
【LNG輸送で環境負荷低減】

LNGは石油や石炭に比べて燃焼時のCO₂排出量が少ないクリーンエネルギーです。2015年度に当社が輸送したLNG輸送量と同量の石油を利用した場合のCO₂排出量を比較すると、約76万8千tのCO₂を削減したことになります。



【化成品輸送で環境負荷低減】

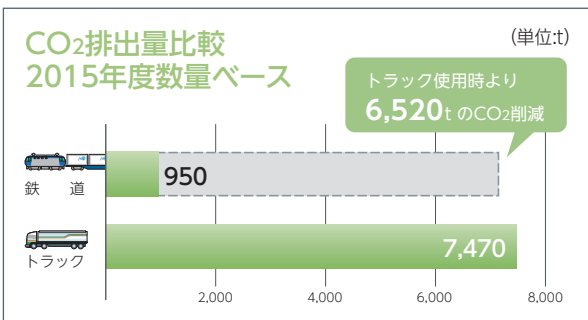
各種化学品・食品等の液体・粉粒体の輸送において、鉄道・海上輸送への誘致を積極的に行い、同区間をトラック輸送した場合と比較すると、2015年度は約3千tのCO₂排出量を削減したことになります。





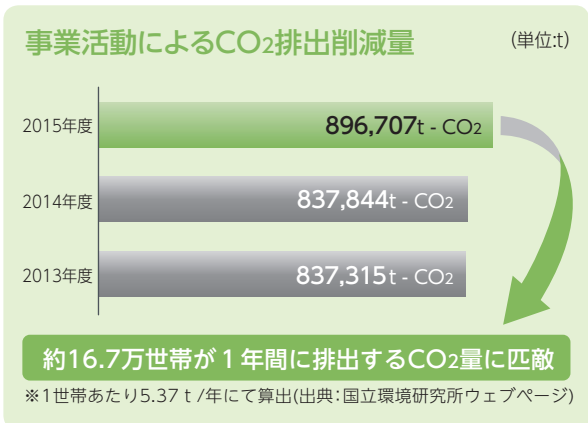
【コンテナ輸送で環境負荷低減】

高い断熱性能を有するスーパーURコンテナは、保冷・保温の必要性が高い荷物を中心に需要があります。同区間を保冷・保温トラックで輸送した場合と比較すると、2015年度は約7千tのCO₂排出量を削減したことになります。



【太陽光発電で環境負荷低減】

2013年から現在まで、室蘭・郡山・神栖・蒲郡の4カ所に化石燃料を使用しない、クリーンエネルギーである太陽光発電設備を導入しました。2015年度の年間総発電量は415万8千kWhで、約2千tのCO₂排出量削減効果がありました。



3 資源循環への取り組み

廃棄物の発生量削減を推進するとともに、資源の再利用にも積極的に取り組んでいます。不用となった貨車・タンクコンテナはリサイクル資源として有効利用し、ボックスコンテナは倉庫目的でのリユースを基本としております。



4 環境関連法規の遵守状況

環境に関する法規制を遵守し、環境汚染を未然に防止することは事業者にとって重要な責務です。

2015年度、日本石油輸送における環境関連の法令違反等はありませんでした。

グループの環境保全活動

自動車輸送には化石燃料が不可欠なため、環境負荷は決して低くありません。鉄道輸送部門との連携だけに留まらない積極的な環境保全活動を行っています。

1 「グリーン経営認証」を取得

JOTグループの自動車部門全体で31事業所がグリーン経営認証を取得しています(2015年度末時点)。

※「グリーン経営認証」は、交通エコロジー・モビリティ財団が、国土交通省、全日本トラック協会の協力を得て、トラック事業者が環境保全活動を自主的に進めていくためのマニュアルを作成し、グリーン経営の普及を推進する制度です。

2 「エコドライブキャンペーン」の実施

グループ統一の活動の一つとして、毎年「エコドライブキャンペーン」を実施し、アイドリングストップや急発進・急停止の抑制など、環境に配慮した運転を通じ、燃費の向上に努めました。

グループ各社では外部講師を招聘して講習会を開催するなど、エコドライブ技術の習得に努めました。



従業員一人ひとりがいきいきと働き、 仕事を通じて人が成長する職場環境の実現を目指しています。

1 「個の尊重」を主題とした人権啓発の推進

人権啓発の推進にあたって、2015年度は人権全般への意識向上、働きやすい職場環境づくりをテーマとして取り組みました。「人権に関する意識・実態調査」および「職場環境アンケート」を実施し、働きやすい職場環境の実現を目指しました。

2 こころと身体の充実と健康管理

従業員の健康管理に向けた取り組みとして、健康診断の完全実施により生活習慣病を予防し、健康を増進する「健康チャレンジキャンペーン」を継続実施し、意識付けを行いました。さらに2015年度はメンタルヘルスに取り組みました。こころの不調を未然に防ぐため、自らのまたは周囲のストレス状況の気付きを促す講習会を実施しました。



メンタルヘルスDVD視聴

3 ワークライフバランスに向けて

仕事と私生活の両立支援として、育児短時間勤務制度を導入し、育児休職から復帰後に、1日最大2時間短縮する制度を実施しておりますが、さらに時差出勤制度も導入し、利用者の拡大に努めました。出産した従



育児休職制度利用者の声

■ 中部支店 木之本 文香

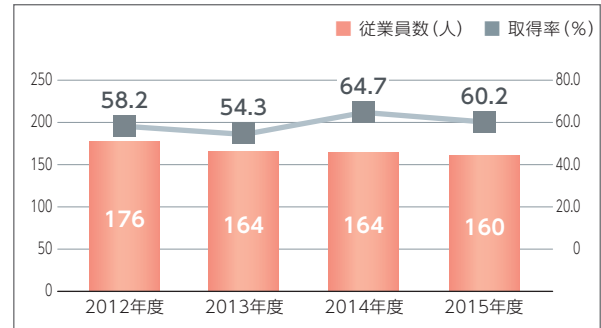
2015年に長女を出産し、今は育児休職をいただいております。初めての出産、子育てには戸惑うことも多く、不安も沢山ありましたが、産前産後、育児休暇のおかげでゆとりを持って子どもと触れ合い成長を見守ることができ、一日一日がとても充実しております。いつも支えてくださる周りの皆様に感謝の気持ちを忘れずに、復帰後は短時間勤務制度利用も視野に入れながら一杯頑張っていきたいと思っております。

業員だけでなく、育児を行う従業員への理解と支援を行い、ワークライフバランスに向けた取り組みを着実に進めています。

働きやすい職場環境の実現として、時間外労働の削減、有給休暇取得促進を進めました。時間外労働の削減に向けて定時退社推進日を継続し、また有給休暇取得促進に向けても、労働組合と意見交換等を行い、計画取得や取得しやすい環境づくりに取り組みました。

平均有給休暇取得率60%超を実現しています。

有給休暇取得率



4 人材育成プログラムの充実

次代を担う若手社員の早期育成をさらに充実させ、かつ、従業員全体の専門能力を高めるために、OJT、OFF-JT、自己啓発支援を有機的に組み合わせた教育プログラムを実施しています。海外語学留学も様々な大学への派遣となり、海外事業拡大に向けて人材の育成に取り組んでいます。

■ 集合型研修

	2013年度	2014年度	2015年度
マネジメント研修	3名	3名	3名
管理者研修	11名	—	10名
中堅社員スキルアップ研修	12名	13名	—
営業力向上研修	—	—	11名
若手社員パワーアップ研修	—	—	8名
新入社員研修	3名	6名	4名

■ 自己啓発(通信教育受講者数)

	2013年度	2014年度	2015年度
通信教育受講者数	74名	84名	83名

■ 主な資格取得状況

	2015年度取得者数	累計取得者数
高圧ガス製造保安責任者	2名	55名
危険物取扱者(乙種4類)	4名	146名
運行管理者(一般貨物自動車運送事業)	4名	70名
防火管理者	3名	53名
酸素欠乏危険作業主任者	4名	73名

社会とともに生きる企業グループとして、 日本石油輸送らしさを生かした社会貢献活動を進めています。

日本石油輸送では、社会と共生することができる企業グループとして、部門横断的なメンバーで構成される「社会貢献委員会」での議論・検討のもと、全員が主体性をもって、「日本石油輸送らしさ」を生かすことができる社会貢献活動に取り組んでいます。

特集(3~4ページ)でご紹介した活動のほかにも、様々な活動を行っています。

1 児童の貧困支援

会社創立70周年(2016年3月)を記念し、子どもの貧困問題が社会問題化する現状を踏まえて、この問題に取り組んでいる一般財団法人(当時、2016年4月1日より公益財団法人)あすのばに対して寄付を行いました。



2 環境保全活動

環境に配慮した社会貢献活動として、神奈川県が森林の豊かな恵みを次世代に引き継いでいくため取り組んでいる「かながわ水源の森林づくり」の「森林再生パートナー制度」に2011年3月から参加しています。

本制度は森林を整備するための寄付だけではなく、間伐、下草刈り、枝打ち等の森林を保全する活動を自らが体験することによって、森林のはたらきやその重要な役割に関する理解を深めており、2015年度も従業員によるボランティア活動を行いました。



枝打ち作業の様相

3 地域に根ざした社会貢献活動

特集(3~4ページ)でご紹介した「品川区民まつり」のほかにも、本社や支店、事業所を中心に地域に根ざした社会貢献活動を継続的に行っています。また、グループ各社においても、事務所近隣地域の道路清掃活動などを継続して行っています。

参加者の声

中部西小学校(三重県四日市市)で開催された「ふれあい広場」にボランティア参加して、四日市地区の方々との親睦を深めました。

■中部支店 宮澤 智行

当日は天候にも恵まれ、小さい子どもから高齢者まで多くの方々に参加されていました。

中部支店からは私を含め3名が参加し、「ストラックアウト」のコーナーを担当しました。小学生や中学生がパーフェクトを目指しチャレンジする姿に、私自身も手に汗握る思い



でした。
ほかにも中学校吹奏楽部による演奏も行われており、学生時代を思い出すとともに、楽しいひと時を過ごすことができました。

参加者の声

仙台貨物ターミナル駅付近の通学路の清掃活動を行いました。

■東北支店 齊藤 拓海

仙台貨物ターミナル駅に隣接する道路は、通学路として毎日多くの学生の方々に利用されており、東北支店では、この道路の清掃活動を継続して行っています。

私も通勤時に毎日利用している道路ですが、実際に清掃活動を行うと、意外に多くのごみが落ちています。

皆さんに気持ちよく通行してもらいたいという思いを込めて清掃活動を行いました。



JOT

日本石油輸送株式会社

お問い合わせ先

日本石油輸送株式会社 CSR推進室

〒141-0032 東京都品川区大崎一丁目11番1号

(ゲートシティ大崎ウエストタワー16階)

TEL.03-5496-7671 FAX.03-5496-7856

<http://www.jot.co.jp/>



この冊子は、適切に管理された森林から生まれたFSC®認証紙、植物油インキおよび有害な廃液の出ない水なし印刷で印刷しています。